

# 令和4年度事業報告書

## I 会務報告

### 1. 会員の状況について

	正会員	準会員	合計
今期末会員数	2,787人	0人	2,787人
前年度会員数	2,831人	1人	2,832人
増減	△44人	△1人	△45人

支部別会員数は、添付諸表資料1のとおり

### 2. 賛助会員について

#### (1) 団体等

北海道農業共済組合	500,000円
ホクレン農業協同組合連合会	350,000円
(株)札幌夜間動物病院	200,000円
北海道農業協同組合中央会	100,000円
(一社)ジェネティクス北海道	100,000円
(株)高橋動物病院	100,000円
酪畜支援センター	100,000円
(有)なかとんべつ動物病院	50,000円
(株)TYL	20,000円

#### (2) 個人

なし

### 3. 名誉会員の推薦について

令和4年12月16日開催の理事会において、各支部長から推薦のあった下記19人の会員を名誉会員にすることとし、令和5年度地区獣医師会総会において名誉会員証を授与することとした。

澤向 豊 (石狩)、三上祐二 (石狩)、喜田 宏 (石狩)、浪越靖政 (石狩)、川井秀行 (石狩)、加地勝二 (石狩)、小野智昭 (空知)、青木繁勝 (空知)、近江嘉博 (道南)、白波瀬稔 (胆振)、大西正宏 (胆振)、梁川正克 (日高)、上水典明 (日高)、秋間紘一 (十勝)、三城恭彦 (釧路)、黒沢慎治 (釧路)、金森 隆 (釧路)、高橋昭夫 (根室)、岡井 健 (根室)

### 4. 役職員の異動について

#### (1) 役員

令和4年6月14日、第10回定時代議員会において小田茂樹理事辞任と細貝茂樹理事辞任による役員補欠選任が行われ、奥村利盛氏 (石狩支部) と小中文雄氏 (胆振支

部)が選任され、同日就任した。

(2) 職員

異動なし

5. 日本獣医師会特別委員会委員、職域別部会委員会委員 (本会分)

(1) 特別委員会

One Health 推進検討委員会	会長	高橋 徹
AMR 対策推進検討委員会 (副委員長)	副会長	田村 豊

(2) 職域別部会委員会

◎常設委員会

学術・教育・研究委員会	理事	中田 健
産業動物臨床・家畜共済委員会 (委員長)	顧問	西川治彦
産業動物臨床・家畜共済委員会	理事	岡本真平
小動物臨床委員会	理事	上田広之
家畜衛生・公衆衛生委員会	理事	小中文雄
動物福祉・愛護委員会		千葉 司 (札幌市)
総務委員会	専務理事	菅野一敏

◎個別委員会

女性獣医師活躍推進委員会		高橋佐和子 (高橋とんとん診療所)
--------------	--	----------------------

6. 代議員会・理事会の開催について

(1) 令和4年度 (第10回) 定時代議員会

日 時: 令和4年6月14日 (火)

会 場: 北海道獣医師会館

議 案

議案第1号	令和3年度事業報告について (報告事項)
議案第2号	令和3年度決算について (承認事項)
議案第3号	令和4年度事業計画及び収支予算について (報告事項)
議案第4号	令和4年度賛助会費について (承認事項)
議案第5号	会費規程の改正について (承認事項)
議案第6号	令和4年度役員報酬について (承認事項)
議案第7号	役員の補欠選任について (承認事項)

(2) 理事会

【第1回】

日 時: 令和4年5月19日 (木)

会 場: 北海道獣医師会館

<報告事項>

1. 職務執行状況について
2. 業務執行状況について
3. 傷病鳥獣等保護受託業務について

<議決事項>

1. 令和3年度事業報告及び決算の承認について
2. 令和3年度決算監査結果について
3. 令和4年度賛助会員について
4. 令和4年度役員報酬について
5. 役員の補欠選任について
6. 令和4年度（第10回）定時代議員会の開催について
7. 代議員会における書面等による議決権の行使について
8. 北海道獣医師会館建替え資金融資先の選定について
9. 北海道獣医師会館建替え業者の選定と  
30万円以上の固定資産取得のための支出について
10. 日本獣医師会専門委員の推薦について
11. 地区学会幹事の承認について
12. 各部会委員・会誌編集委員・地区学会役員の変更について

<協議事項>

1. 新規駐車場工事業者の選定について
2. 令和4年度地区学会における発表申込みの集約について
3. 令和4年度大会・地区学会の運営について

**【第2回】**

日 時：令和4年6月14日(火)

会 場：ホテルヤマチ

<報告事項>

1. 会館建替え当初見積額から増額された費用について
2. 会館建替え資金融資返済額（暫定）について

<議決事項>

1. 新規駐車場工事業者の選定について

<協議事項>

1. 地区学会の運営等について
2. 事務所の移転（行き）について
3. インボイス制度（消費税）の取扱いについて

**【第3回】**

日 時：令和4年8月31日(水)

会 場：とまちプラザ

<議決事項>

1. 事務所の移転（行き）について
2. 事務所の移転（行き）費用について

<協議事項>

1. インボイス制度に対する今後の対応について

**【第4回】**

日 時：令和4年12月16日(金)

会 場：ホテルヤマチ

<報告事項>

1. 職務執行状況について
2. 業務執行状況について
3. 中間監査結果について
4. 令和4年度狂犬病予防注射事故の発生状況について
5. 会館建替寄附金の入金状況について
6. 北海道獣医師会館の工事請負契約について
7. 新規駐車場工事料金について

<議決事項>

1. 地区獣医師会との委託契約書の改正について
2. 会費規程の改正について
3. 令和5年度大会・地区学会の開催場所等について
4. 令和5年度名誉会員の承認について
5. 令和5年度地区学会長の承認について

<協議事項>

1. 資産取得資金規程の制定について
2. 狂犬病予防注射実施取扱要綱の改正について
3. 令和5年度会員名簿を発刊するかどうかについて
4. 令和5年度事業計画（案）について

**【第5回】**

日 時：令和5年2月1日(水)

会 場：二十四軒借用ビル（ウェブ併用）

<議決事項>

1. 令和5年度10月実施分からの狂注技術料単価の一部変更について

**【第6回】**

日 時：令和5年3月15日(水)

会 場：ホテルヤマチ

<報告事項>

1. 業務執行状況について

<議決事項>

1. 令和5年度事業計画等について
2. 資産取得資金規程の制定について
3. 狂犬病予防注射実施取扱要綱の改正について
4. 令和5年度地区学会幹事の承認について

<協議事項>

1. 会館建替え寄附金募集期限の延長について
2. 北海道獣医師会館の空室対策について

(3) 監査

令和3年度決算監査	令和4年5月12日(木)	北海道獣医師会館
令和4年度中間監査	令和4年10月12日(水)	〃

(4) 三役会議

第1回	令和4年11月14日(月)	北海道獣医師会館
第2回	令和4年11月26日(土)	二十四軒借用ビル
第3回	令和4年12月7日(水)	札幌大通西ビル
第4回	令和4年12月16日(金)	ホテルヤマチ
第5回	令和5年1月27日(金)	ウェブ開催
第6回	令和5年3月4日(土)	二十四軒借用ビル
第7回	令和5年3月21日(火)	二十四軒借用ビル

(5) 事務局長会議(ウェブ開催) 令和5年3月8日(水)

(6) 各部会、委員会

小動物臨床部会	令和4年4月15日(水)	ウェブ開催
北獣雑誌編集委員会	令和4年4月20日(水)	〃
産業動物臨床部会	令和4年4月28日(木)	〃

(7) 学会関係

獣医学術地区学会長会議	令和4年6月29日(水)	ウェブ開催
-------------	--------------	-------

7. 弁護士との顧問契約について

札幌市内で法律事務所を開設している橋本智弁護士(事務所 Tel: 011-272-1056)と顧問契約を締結し、会員の法律的な事案に相談対応できる体制を継続している。

## II 事業報告

### 公益目的事業1：獣医学術の振興・普及並びに人材の育成を図る事業

獣医学及び獣医療の最新の研究成果、優れた診療実績等を共有し、獣医師全体の技術向上を図り、それらの成果を社会に還元する。

#### 1. 獣医学術北海道地区学会・北海道獣医師大会の開催

##### (1) 獣医学術北海道地区学会の開催

- ①令和4年度獣医学術北海道地区学会は9月1日（木）、帯広畜産大学において開催した。会員及び会員外450人の参加を得て、十勝支部等道東3支部や学会幹事を中心とした会員の協力により整齊と運営された。
- ②発表演題は産業動物獣医学会67題、小動物獣医学会26題、獣医公衆衛生学会11題の、合計104題がエントリーされた。
- ③ランチョンセミナーは協賛会社の協力のもと、4会場で多彩な内容により実施された。
- ④各地区学会会長賞、北海道獣医師会会長賞・奨励賞については、獣医学術地区学会役員による審査会において慎重に審議され、次のとおり選定された。

#### 【令和4年度北海道地区学会優秀発表演題と発表者】

##### 1. 日本産業動物獣医学会（北海道）

###### 【北海道地区学会会長賞】

「ギガファームにおける乳牛の *Salmonella* Ngili 感染事例およびその対策」

○日浅 淳 木谷文彦 下戸裕太郎 酒井雄介 樋山 晃

JA 士幌町家畜診療課

「感染源としてカラスが強く疑われた牛サルモネラ症発生事例」

○櫻井由絵<sup>1)</sup> 山口英美<sup>2)</sup> 池田徹也<sup>3)</sup> 佐々木貴正<sup>4)</sup>

1) 道総研畜試 2) 農研機構動衛研 3) 道立衛研 4) 国立衛研

「当歳馬における急性間質性肺炎17例」

○水口悠也<sup>1)</sup> 富樫雄三<sup>1)</sup> 都築 直<sup>2)</sup>

1) 日高軽種馬農協 2) 帯畜大臨床獣医学

「農場現場にて実施する子牛の開腹手術における硬膜外麻酔と全静脈麻酔を併用した最適な麻酔管理法の検討」

○池田哲平 牧野康太郎

BRAST Livestock Clinic

###### 【北海道獣医師会会長賞】

「周産期のジャージー牛における長時間計測型無線式心電計を用いた低Ca血症の経時的モニタリング」

○伊藤めぐみ<sup>1)</sup> 千葉悠斗<sup>2)</sup> 中島康博<sup>3)</sup> 高田智文<sup>4)</sup> 神谷裕子<sup>5)</sup> 鈴木知之<sup>5)</sup>  
高橋英二<sup>1)</sup>

1) 帯畜大臨床獣医学 2) NOSAI 岩手 3) 道総研工業試 4) オーレンス

5) 農研機構中央農業研究センター

「馬の卵管通水法による凍結精液を用いた卵管授精：試験的な試み」

○井上裕士

イノウエ・ホース・クリニック

【奨励賞】

「牛伝染性リンパ腫ウイルス感染牛における分娩が及ぼす免疫抑制メカニズムの解析」

○富永みその<sup>1)</sup> 今内 覚<sup>1)</sup> 佐治木大和<sup>1)</sup> 岡川朋弘<sup>1)</sup> 小原潤子<sup>2)</sup> 似内厚之<sup>3)</sup>  
高橋博文<sup>3)</sup> 窪田健太郎<sup>3)</sup> 武田休史<sup>3)</sup> 前川直也<sup>1)</sup> 村田史郎<sup>1)</sup> 大橋和彦<sup>1)</sup>

1) 北大感染症学 2) 道総研畜試 3) NOSAI 北海道

「ホルスタイン種育成牛の趾皮膚炎多発農場における治療および予防効果の検証」

○角田偵徒<sup>1)</sup> 前田涼汰<sup>1)</sup> 山田紗也<sup>1)</sup> 村上高志<sup>1)</sup> 久津間正登<sup>2)</sup> 阿部紀次<sup>3)</sup>  
佐藤綾乃<sup>1)</sup>

1) 酪農大生産動物医療学 2) 久津間装削蹄所  
3) トータルハードマネージメントサービス

2. 日本小動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会賞】

「北海道獣医師会が行った飼育犬・猫のダニ媒介性脳炎の疫学調査について」

○上田広之<sup>1)</sup> 小林進太郎<sup>2)</sup> 好井健太郎<sup>3)</sup>

1) 北獣小動物臨床部会 2) 北大獣医公衆衛生学  
3) 長崎大高度感染症研究センター

「犬尿中コルチゾール/クレアチニン比の基準値の確立とクッシング症候群の診断への応用」

○永田矩之<sup>1)</sup> 澤村飛龍<sup>1)</sup> 五日市大介<sup>2)</sup> 森下啓太郎<sup>1)</sup> 細谷謙次<sup>1)</sup> 横山 望<sup>1)</sup>  
笹岡一慶<sup>1)</sup> 佐々木 東<sup>1)</sup> 中村健介<sup>3)</sup> 池中良徳<sup>1)</sup> 滝口満喜<sup>3)</sup>

1) 北大附属動物病院 2) 酪農大伴侶動物医療学 3) 北大獣医内科学

【北海道獣医師会長賞】

「低コレステロール血症は犬の腓外分泌不全を予測できるのか？」

○横山 望<sup>1)</sup> 大田 寛<sup>2)</sup> 永田矩之<sup>1)</sup> 笹岡一慶<sup>1)</sup> 新坊弦也<sup>1)</sup> 佐々木 東<sup>1)</sup>  
森下啓太郎<sup>1)</sup> 中村健介<sup>3)</sup> 滝口満喜<sup>3)</sup>

1) 北大附属動物病院 2) 酪農大伴侶動物医療学 3) 北大獣医内科学

「院内湿潤環境に対する注意喚起：北大附属動物病院における環境サーベイランス結果」

○笹岡一慶<sup>1)</sup> 新田優里香<sup>2)</sup> 佐藤豊孝<sup>2)</sup> 堀内基広<sup>2)</sup> 滝口満喜<sup>3)</sup>

1) 北大附属動物病院 2) 北大獣医衛生学 3) 北大獣医内科学

【奨励賞】

「腫瘍随伴性の低血糖によって糖尿病がマスクされた原発性肝細胞癌の犬の1例」

○渡邊美潮 酒井俊和 山本集士 田村昌大 堀 あい 鳥巢至道  
酪農大伴侶動物医療学

「慢性リンパ性白血病の経過観察中に皮膚型リンパ腫を発症した犬の1症例」

○青木みのり<sup>1)</sup> 田川道人<sup>1)</sup> 松本高太郎<sup>2)</sup> 渡邊謙一<sup>3)</sup> 峰重隆幸<sup>3)</sup> 古林与志安<sup>3)</sup>

1) 帯畜大動物医療センター 2) 帯畜大臨床獣医学 3) 帯畜大基礎獣医学

### 3. 日本獣医公衆衛生学会（北海道）

#### 【北海道地区学会賞】

「と畜検査申請時の投薬歴未申告事例に対する取り組み」

○野口りか<sup>1)</sup> 脇渕稔洋<sup>2)</sup> 吉岡えりな<sup>1)</sup> 鈴木竹彦<sup>1)</sup>

1) 帯広食肉衛検 2) 日高食肉衛検

#### 【北海道獣医師会長賞】

「バーチャルリアリティ（VR）技術を活用した牛のと畜検査実習」

○千里今日子<sup>1)</sup> 内田玲麻<sup>1)</sup> 岩谷 剛<sup>2)</sup> 成澤昭徳<sup>3)</sup> 蒔田浩平<sup>1)</sup>

1) 酪農大予防獣医学 2) NEC ソリューションイノベーション 3) 東藻琴食肉衛検

#### 【奨励賞】

「肥灌施設における家畜糞便由来薬剤耐性菌の実態と土壌への伝播経路の解明」

○張 東昇<sup>1)</sup> 福田 昭<sup>1)</sup> 蒔田浩平<sup>1)</sup> 鈴木仁人<sup>2)</sup> 臼井 優<sup>1)</sup>

1) 酪農大予防獣医学 2) 国立感染研 薬剤耐性研究センター

### (2) 第71回北海道獣医師大会の開催

①第71回北海道獣医師大会は9月1日（木）ホテル日航ノースランド帯広を会場に、日本獣医師会蔵内勇夫会長・境政人副会長他多数の来賓を迎え盛会裏に開催した。

②大会では、小動物臨床部会提案として「愛玩動物看護師の国家資格化とさらなる活躍を目指して」の提案を満場一致で決議した。

③大会に引き続き、前年度地区学会優秀発表表彰、北獣会誌投稿優秀論文表彰、狂犬病予防事業顕彰及び学位（博士号）取得者顕彰を行った。狂犬病予防事業顕彰者及び学位取得顕彰者は次のとおり。

#### 狂犬病予防事業顕彰者

牧野 秀彦（石狩支部） 樋口 直（石狩支部） 北島 哲也（石狩支部）  
嶋田 豪（上川支部） 渡邊 景（道南支部） 前田 浩人（胆振支部）  
石森 久雄（十勝支部） 小林 香（根室支部） 林 久（樺太支部）  
橋場由美子（留萌支部）

#### 学位（博士）取得顕彰者

□博士（獣医学）上野 大作

（NOSAI 北海道 日高中部家畜診療所）

論文題目：「黒毛和種経産牛における発情同期化プロトコル期間中の  
卵胞サイズが受胎性に及ぼす影響に関する研究」

取得大学：岐阜大学

取得年月日：2021年9月17日

□博士（獣医学）北村 康也（八雲動物病院）

論文題目：「非接触型マイボグラフィを用いた  
イヌのマイボーム腺形態に関する研究」

取得大学：酪農学園大学

取得年月日：2021年9月30日

□博士（獣医学）榎谷 雅文（北海道デーリイマネージメントサービス）

論文題目：「模擬搾乳装置を用いた搾乳システムの搾乳能力評価に関する研究」

取得大学：麻布大学

取得年月日：2021年11月22日

□博士（獣医学）新倉 匡賢（NOSAI 北海道 上士幌家畜診療所）

論文題目：「Study on the uterine cytology and bacteriology  
in heavy draft horses」

（重種馬における子宮内細胞診および細菌学的調査）

取得大学：帯広畜産大学

取得年月日：2022年3月18日

□博士（獣医学）佐藤 正人（NOSAI 北海道 日高家畜高度医療センター）

論文題目：「馬の喉頭片麻痺における経皮的超音波画像診断法による  
背側披裂輪状筋の描出と評価に関する研究」

取得大学：酪農学園大学

取得年月日：2022年3月25日

## 2. 北海道獣医師会雑誌の発行について

獣医学術の振興・普及並びに諸行事の案内、活動報告等の情報提供の媒体として北海道獣医師会雑誌（北獣会誌）を毎月定期に発刊した。（第66巻第4号～12号及び第67巻第1号～第3号）また、会誌編集委員会において、前年度本会誌に掲載した学術論文から優秀なものとして次の3編を選定し、第71回北海道獣医師大会において顕彰した。

### 令和3年度北海道獣医師会雑誌優秀論文表彰

<産業動物獣医学部門>

□「黒毛和種雄子牛の尿道閉塞に対するチューブ膀胱瘻造設術  
（Tube cystostomy）の1例」

小松 勝一<sup>1)</sup> 大西 光徳<sup>2)</sup>

1) NOSAI みなみいぶり東部家畜診療センター

2) NOSAI みなみ後志家畜診療センター

□「子牛の出血性腸炎における回顧的調査と病原微生物特定の試み」

山谷 省吾<sup>1)</sup> 川口 正人<sup>2)</sup> 小松 勝一<sup>1)</sup>

1) NOSAI みなみいぶり東部家畜診療センター

2) NOSAI みなみいぶり西部家畜診療センター

<小動物獣医学部門>

□「重度の腹腔内出血を呈した好中球性胆管肝炎の猫の1症例」

田川 道人<sup>1)</sup> 熊川 実旺<sup>1)</sup> 柳川 将志<sup>2)</sup> 轉馬 創<sup>3)</sup>

渡邊 謙一<sup>3)</sup> 古林与志安<sup>3)</sup> 宮原 和郎<sup>1)</sup>

1) 帯広畜産大学動物医療センター 2) 帯広畜産大学臨床獣医学研究部門

3) 帯広畜産大学グローバルアグロメディシン研究センター

### 3. 国際交流について

本会は相互の獣医学術の向上と交流を深め、互いに発展することを目的として、韓国の慶尚北道獣医師会と姉妹提携を結んでいる。現在、海外悪性伝染病である口蹄疫やアフリカ豚熱の発生もあり招聘を延期している。

### 4. 技術向上に係る講習会、研修会の開催について

本部主催の講習会と野生鳥獣救護技術講習会は中止した。支部主催により、産業動物・小動物・食検・新技術講習会を実施した。また、地区獣医師会や関係団体の主催する講習会、研修会等に後援・協賛し支援した。

開催状況は添付諸表資料3のとおり

## 公益目的事業2：人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する事業

人と動物の共通感染症の予防等、公衆衛生や家畜の伝染病予防等の家畜衛生に関する事業並びに動物の愛護・福祉の増進・野生動物の保護に関する事業を推進し、人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する。

### 1. 狂犬病予防注射事業の推進について

(1) 狂犬病予防注射事業は本会の主体となる公益目的事業として、各支部実施班の協力のもとで実施した。その注射頭数は155,578頭（前年比2,619頭減）で、減少傾向が続いている。支部別注射頭数は添付諸表資料5のとおり

狂犬病予防注射実施率向上対策の一環として、北海道・札幌市・動物愛護団体等と連携し、札幌地下歩行空間で狂犬病予防注射啓発イベントを開催した。

(2) 狂犬病予防注射事業に係る事故について、ワクチンによる副反応事故についても、狂犬病予防注射事故対策要領に沿って補償することとしている。令和4年度は犬の事故は死亡2頭・回復20頭の報告があった。犬の事故の多くはアナフィラキシー反応だが、犬の飼養者個々にチラシ等で注意喚起する等、きめ細かい対応がなされ、それぞれ支部実施班で適切に対応した。なお、死亡例は注射直後の発症であり、アナフィラキシーショックが疑われるが、剖検出来なかったことから確定には至っていない。

(3) 現状の狂犬病ワクチンは1バイアル10ドース分であることから、バイアル開封後

の日数経過等により廃棄を余儀なくされる。ワクチンメーカーに対し、1バイアル1ドース製品の開発、供給を要請している。

## 2. 動物愛護の推進について

- (1) 北海道から委託を受け実施している野生傷病鳥獣保護業務について、会員動物病院等の協力を得て31病院、103頭羽(前年比37頭羽減)の傷病鳥獣の診療、救護費用を補填した。
- (2) 同じく北海道から委託を受け実施している所有者の判明しない犬猫等の診療、保護委託業務では39病院、214頭(前年比83頭減)の保護・診療費用の一部を補填した。  
札幌市、函館市、旭川市においても、それぞれの市からの受託により同事業を実施し、札幌市8病院25頭、旭川市2病院29頭、函館市2病院2頭の保護治療を行った。
- (3) 災害時の動物救護活動として、洞爺湖町の希望者に対して無料でマイクロチップの装着を行った。

## 3. 公開講座等の開催について

- (1) 北海道医師会との学術連携シンポジウム  
高病原性鳥インフルエンザをはじめ多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まる中、医師と獣医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められている。  
このような状況を受け、学術協力を推進する旨の協定書締結に基づき、4月17日(日)「コロナ禍における医学・獣医学分野の連携」をテーマに、連携シンポジウム等を開催した。
- (2) 野生動物部会の協力を得て、野生傷病鳥獣の診療技術向上のため技術講習会を札幌市(円山動物園)、釧路市において例年開催しているが中止した。
- (3) 動物愛護や獣医師の仕事に対する理解を深めるための小学生等を対象にした「どうぶつのお医者さん体験教室」は中止した。

## 収益事業1：不動産賃貸事業

### 1. 所有建物の貸付け

北海道獣医師会館の事務室スペースは、北海道家畜畜産物衛生指導協会(9月まで)、さっぽろ獣医師会、札幌市小動物獣医師会、日本馬事協会北海道事務所に貸付けするとともに、会議室は各種会議等に貸付けを行った。

## 収益事業2：共同購入事業

会員が業務上必要とする各種様式印刷物や診断薬を一括購入し、添付諸表資料6のとおり斡旋販売した。

## **その他事業1： 福利厚生事業**

「福利厚生規程」に基づき、病気見舞金、弔慰金及び生花をそれぞれ添付諸表資料7のとおり贈呈した。

## **その他事業2： 受託事業**

### **1. 狂犬病予防注射済票交付事業**

道内173市町村からの委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、市町村に代わり、狂犬病予防注射を受けた犬の飼養者に対し、狂犬病予防注射済票の交付を行った。

飼養者が居住していない市町村で狂犬病予防注射を受けた場合、注射実施者、責任者や各支部事務局の協力により、狂犬病予防注射済証を当該自治体に送付する事業を実施した。

### **2. 犬の登録及び鑑札交付事業**

道内6市からの委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、狂犬病予防注射実施時に道内6市に代わり犬飼養者の便宜のため犬の登録受付及び鑑札の交付を行った。

### **3. 動物愛護週間における啓発活動**

札幌市小動物獣医師会の主催する動物愛護事業に協賛した。これ以外の江別市小動物開業獣医師会による動物愛護事業等の行事、日本獣医師会が主催する動物感謝デー in Japan “World Veterinary Day”」に協賛した。

### **4. 海鳥等保護対策事業**

天売島の海鳥保護のため、羽幌町等からの委託を受け、不妊去勢手術、馴化、譲渡等で野良猫を減少させる事業を実施し、環境省・道庁・羽幌町・本会・北海DOぶつネット等による「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会（会長：高橋 徹北海道獣医師会会長）が関係機関とともに活動し、海鳥は増加している。

## 【会務運営報告】

### (1) 組織基盤強化

道内 13 支部、職域及び専門部会と連携し、会員加入拡大を組織基盤の原点として鋭意努めてきた。女性獣医師の役員登用も喫緊のテーマであり、女性獣医師が活躍できる環境強化を継続していく。

### (2) 北海道獣医師会館建設に向けた財政基盤強化

令和 4 年 1 月から会館建替え専用の寄附金を募り、今年度は 880 万円超の寄附金をいただいた。昨年分と合わせると 1,100 万円超の寄附金になり、会員各位を中心とした皆様に感謝申し上げます。北海道獣医師会館は北海道獣医師会の活動拠点・シンボルでもあり、会員各位の理解のもと活用していく。

### (3) 愛玩動物看護師法制定に伴う支援について

第 1 回愛玩動物看護師国家試験が令和 5 年 2 月に実施され、道内で 900 人超の愛玩動物看護師国家資格者が誕生した。現場の動物看護職が特例措置期間である 5 年間にいかに多くの国家資格者を出すかが重要であり、国家資格取得を後押ししている会員動物病院等に今後も協力していく。

### (4) マイクロチップ装着の義務化について

昨年度より犬・猫においてマイクロチップの挿入が繁殖者には義務化され、繁殖者、ペットショップ、飼い主と 3 回の手続きが必須となる。獣医師は第一段階の繁殖者に対し必ず手続きするよう指導し、本会も必要な支援を行う。

### (5) 人獣共通感染症対策について

ダニ媒介性脳炎（エズウイルス感染症）等の人獣共通感染症に対して、会員動物病院等と連携して諸問題に今後も取り組んでいく。

### (6) 女性獣医師の就業環境の整備と就業促進

女性獣医師が半数を占める時代を見据え、特に産業動物分野で活躍できる環境づくりを関係機関等とともに進めていく。

### (7) 産業動物及び公務員獣医師の確保

北海道の基幹産業である酪農・畜産業界に定着してもらえる処遇改善をはじめ、現場の状況を鑑みながら、今後も関係機関等と協働していく。

### (8) 広報活動の推進

北海道獣医師会雑誌は毎月発刊しており、会員獣医師の学術論文等や事業内容を会員に幅広く広報している。北海道獣医師会ホームページと合わせて、広報活動を更に充実強化していく。

### (9) 獣医師倫理の高揚

獣医師は社会的にも様々な活躍が期待されており、北海道獣医師会倫理規程を遵守し、それらのニーズに応えられるよう信頼される獣医師像を継続・模索していく。

### (10) 動物医療現場におけるインフォームドコンセントの徹底

臨床分野では高度医療が必要とされており、動物医療現場におけるインフォームドコンセントを重視し、動物診療に係る問題提起には今後も適切な対応に努めていく。